

1. 都市計画変更計画案の作成における前提条件の整理

1) 将来乗降客数

大竹駅の乗降客数は年々減少傾向にあり、人口減少により今後も減少が続く可能性がある。しかしながら、以下に示す計画や駅周辺の状況を勘案し、大竹駅の将来乗降人員を **6,800 人/日** に設定する。

- ①第五次大竹市総合計画において、平成 32（2020）年度人口を現在と同等とすることを目標に掲げている。
- ②平成 21 年 3 月に大竹市公共交通総合連携計画を策定するとともに、大竹駅周辺整備による利用環境の改善、第五次大竹市総合計画 前期計画の行動目標として「モビリティマネジメントの実施」を掲げており、公共交通の利用促進が想定される。
- ③大竹駅東口整備によって鉄道利便性が向上するため、大規模な開発計画はないものの、駅東地域におけるマンション及び住宅建設等や未利用地の開発促進による人口流入で地域の活性化が期待できる。
- ④他の交通手段から鉄道利用への転換に伴う乗降人員の増加はあったとしても、現状の鉄道乗降客数から大幅に減少する可能性は低いと考えられる。
- ⑤駅乗降客数は平成 26 年に下げ止まり、平成 27 年からは増加に転じている。平成 23 年以降は概ね横ばいであり、今後もこの傾向が続くと見込まれることから平成 23 年から平成 28 年の乗降客数の平均値を将来乗降人員と設定する。

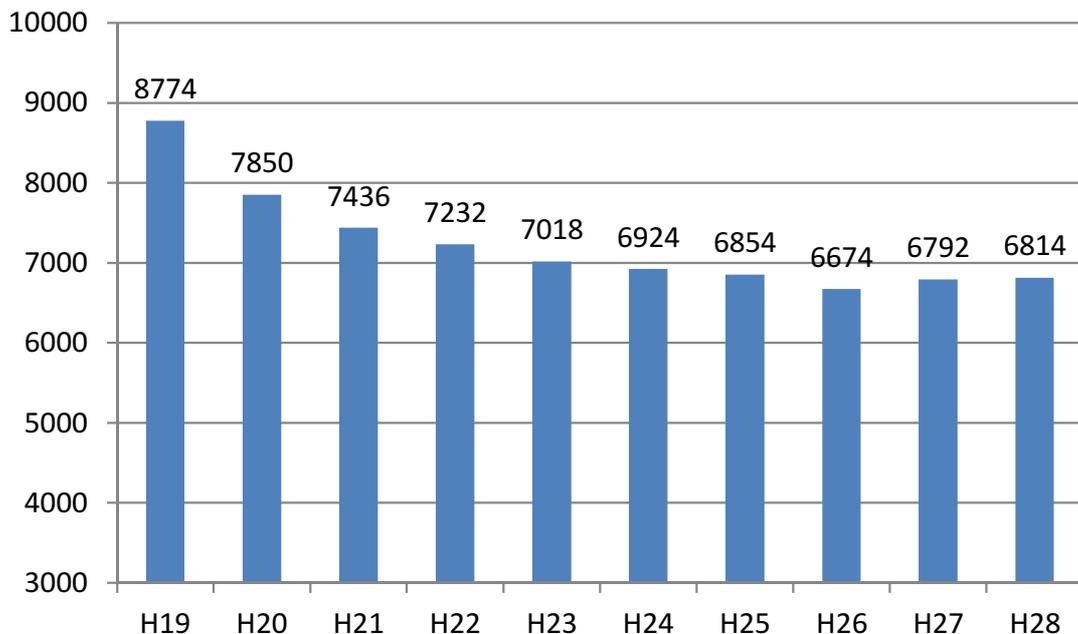


図 大竹駅乗降人員の推移（参考：JR 西日本広島支社資料）

2) 東西比率

大竹駅勢圏の東西地域の人口推移を以下に示す。駅西側地域と駅東側地域の人口比率は概ね7:3であることから、東西比率を7:3に設定する。

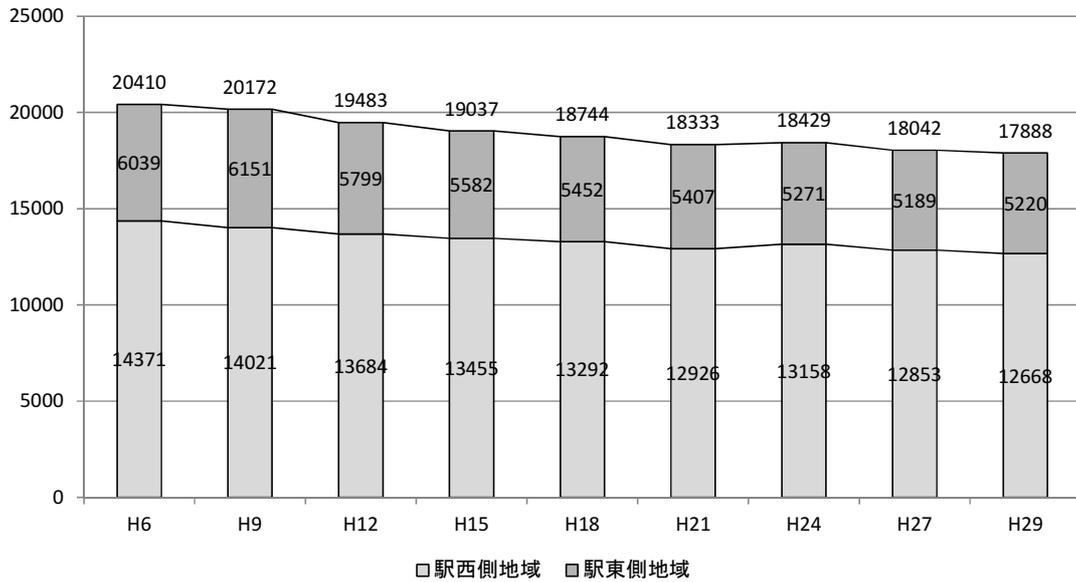


図 駅勢圏内における人口推移



図 大竹駅の駅勢圏

※大竹駅勢圏として設定した地域

＜駅東側＞

西栄1～3丁目、南栄1～3丁目、東栄1～3丁目、北栄、立戸4丁目、御幸町

＜駅西側＞

新町1～3丁目、油見1～3丁目、本町1～2丁目、白石1～2丁目、元町1～4丁目、大竹町大竹、大竹町油見、立戸1～3丁目、御園1～2丁目、御園台、木野1～2丁目、大竹町木野